

2022 年度(令和 4 年度)学校評価自己評価表

鷹取中学校区	校番 1 1	福山市立光小学校
最終更新日		2022年(令和4年)4月12日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち,変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと,各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し,日々の授業を中心として評価・改善を進めながら,子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ・子どもたちが通いたくなる学校づくりを引き続き進めて欲しい。 ・気持ちのよいあいさつが校内でできていても,学校を離れるとなかなかできていない状況がある。登校支援をしている方や地域でお世話になっている方には,気持ちの良いあいさつができるよう指導して欲しい。	児童生徒の現状 ・基礎学力はおおむねついているが,思考力や表現力に課題がある。 ・コロナ禍で人とのつながりが希薄になり,地域であいさつができない子どもや人間関係が悩む子どもが増えてきている。 ・長欠・不登校の子ども数が増えている。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) 知識・技能 課題発見・解決力 主体性	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 気づき 考え 行動する 子ども	中学校区として統一した取組等 ・子どもたちが通いたくなる教育活動の推進 ・SDG'sをふまえたふるさと学習を通して地域に貢献できる子どもの育成 ・個性や能力が発揮できる学校組織づくり
---	--	---	---	--

III 自校

ミッション 鷹取中・霞小と連携して「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成を図ることを通して,地域に誇れる学校を創造する。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) 知識・技能 課題発見・解決力 主体性	めざす子ども像 ・課題の解決に必要な知識及び技能を身につけている。 ・身近な問題における課題を発見し,より良い解決方法を考え実行し,次の学習につなげることができる。 ・相手の気持ちを理解しながら意見を伝え合うことを通して,自分の考えを深めたり,広げたりすることができる。	主体性 ・自己の個性や興味・関心等に基づいて,自分の意思をしっかりともち,よりよい学校生活になるように行動することができる。 ・自分のよさや個性を知り,自分の言動が相手や他者へ影響を及ぼすことを理解し,行動することができる。
学校教育目標 自ら学ぶ光っ子の育成	研究 テーマ 内容等	教科の枠を超えて,学びあいを楽しむ児童の育成 ～他者・自己との「対話」を通して～ 知りたい!考えたい!もっとやりたい! 自分でじっくり考えるとともに,他者の意見も踏まえ,考えを広げる授業づくり	
現状 <児童> ○児童と共に単元計画を立てることで,積極的に意見を出す児童が増えている。 ○月に1回,行事に関わるボランティア活動を実施することで,学校のために働く児童が増えた。学校学級が好きな児童は90%であった。 ●主体的な学びの基盤となる学力が不十分であった。 ●気持ちの良いあいさつができると答えた児童が89%と自己評価は高いが,保護者地域の評価は74%と評価の差がある。 <授業> ○児童と共に単元計画を立て,児童の「やりたい」を尊重した授業を行った。 ○オンラインを活用したり,実際に見学したりしたことをもとに地域に関わる授業を行った。地域が好きな児童は90%。 ●自分に合った進度や学び方が選択できる授業場面を十分につくれていない。 ●コロナ禍で活動が制限され,人との関わりが不十分であった。	めざす授業の姿 児童の「問い」を生かす授業 思考を深め,広げる授業 学びがにつながる授業	課題を解決しようとする子どもの姿 対話が弾む子どもの姿 もっとやりたいと思う子どもの姿	

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	〇セシ評価	〇セシ達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	〇セシ評価	〇セシ達成評価	総合評価
1	子どもたちが通いたくなる教育活動の推進	★	新規	<ul style="list-style-type: none"> 「分かった・できた」が実感できる授業づくりを推進する。 個に応じたきめ細やかな支援を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分でじっくり考える場面と他者と対話し考えを広げる場面のある授業を行う。 チャレンジタイムでタブレットやプリント等自分の課題に沿って自分で選んで学習する。 月1回「あのねの日」を設定し、安心して悩みを話せる場づくり、取組を行う。 外遊びをしたくなる環境づくりをし、楽しく遊びながら自然に体力がつく取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「考えることが楽しい」85%以上 児童アンケート「自分に合った学び方ができた」前年度以上 児童アンケート「悩みを相談することができる」90%以上 児童アンケート「体を動かすことが好きである」90%以上 								
1	SDG'sを踏まえたふるさと学習を通して地域に貢献できる子どもの育成		見直し	<ul style="list-style-type: none"> 住み続けられるまちづくりを目指し、地域の課題を発見し、解決に向けた取り組みを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題をもとに単元構想図を作成し、地域や他者との「関わり」「つながり」を意識した授業を行う。 児童会、仲間委員会を中心に挨拶運動をし、気持ちのよい挨拶ができてきている児童を評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「地域が好き」前年度以上 教師アンケート「地域とのつながりを重視した授業ができた」90%以上 児童・保護者・地域アンケート「気持ちの良いあいさつができる」前年度以上 								
1	個性や能力が発揮できる学校組織づくり		新規	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の意義を理解し、教職員一人一人が目標を立て、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外在校時間が、月45時間、年間360時間を超えないように意識して働く。 日常的に授業等見合い、互いによさ・得意・挑戦から学び、伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師アンケート「時間を意識して働いている」100% 教師アンケート「自分の個性や能力が認められている」前年度以上 								

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。

